

コールド・レイク油田は、ロイドミンスターよりずっと規模が大きく、可採総量は、品位を高めた状態で、二十四億、四十八億立方メートルとされている。一九八〇年代中頃ないし末以前にも、かなりの生産が見込めるだろう。

カナダにおけるエネルギー事情の展望

今世紀末以前に、世界が深刻なエネルギー問題に直面することは、ほぼ疑う余地のないところである。一九七三年の石油危機に先立つ十年間に、西側世界の石油消費量は年平均七・五%の割合で伸び続けた。この伸び率が今後著しく減って、例えば三・五%以下になったとしても、石油の需要量は、一九八五年から九〇年までの間に、生産量に追いつき、次いで追い越すものと予想されている。

このような情勢の中で、カナダの見通しは他の多くの諸国よりいいことは確かだ。だが安心はできない。国民一人当りで見ると、カナダは世界一のエネルギー多消費国なのである。

一九七六年、カナダ政府は国民に対し、向う十年以内にエネルギーの自立(self-reliance)を達成するという新エネルギー戦略を打ち出した。自立とは自給(self-sufficiency)の意味ではなく、カナダのエネルギー需要を現実的に可能な限り国産でまかなうということだ。一つの目標として、一九八五年までに輸入石油への依存度を全エネルギー消費量の三分の一以内にとどめることがあげられている。達成は果して可能だろうか。カナダ産

石油の輸出の段階的縮小、効果的な省エネルギー計画の実施、北部フロンティア地域の天然ガス・石油の開発促進、オイルサンドとヘビーオイルの開発、西部にある従来の石油・天然ガス資源として石油以外のエネルギー資源の開発促進——こうした要因をすべて考え合わせれば、

北方の天然ガス 輸送に二つのプロジェクト

カナダ北極は世界でも有数の厳しい環境にある。その北極に、将来の最も豊かなエネルギー産地のひとつになる期待が寄せられている。

北極における天然ガスの確認埋蔵量は推定十二兆立方フィート。マッケンジー・デルタ(三角州)一帯の確認埋蔵量を加えると、十八兆立方フィートになる。

したがって、今や問題は採算に見合う量のガスが見つかるかどうかではなく、どういう方法でそれを市場に運ぶかにある。現在、エネルギー庁(ナショナル・エネルギー・ボード)のもとに、二つのきわめて競争的な案が提出されている。そのひとつ、ポラー・ガス・プロジェクトは、北極およびポーフオート海・マッケンジー・デルタ一帯から天然ガスを輸送するため、七一億ドルをかけてパイプラインを敷設しようというもの。もうひとつのアーキティック・パイロット・プロジェクトは、スーパータンカーでカナダ

目標の達成は十分可能である。したがって、カナダ国民がいま直面している課題は、どれだけエネルギー節約を実行できるか、また、石油その他のエネルギー資源を必要最大限開発する経済的・社会的コストあるいは環境保全コストをどれだけ負担できるか、である。

東部の港までガスを運ぶという計画。こちらの費用は、およそ一七億六千万ドル。
北極ガス・プロジェクト

北極ガス・プロジェクトの最初の計画では、北極点から約六百キロ南にあるメルビル島のサピン半島を起点に、一本のパイプラインを敷設する考えであった。パイプラインはいくつもの海峡の下を通り、キープティン地区のツンドラの下、マニトバ州北部の泥炭地帯および北方森林地帯、オンタリオと南下し、スベリオル湖の南にあるロングラスでトランスカナダ・パイプラインと連結することになっていた。トランスカナダのパイプライン網は、カナダとアメリカの主要市場に天然ガスを輸送している。このルートは、数多くのデータやポラー・ガス社による現地調査を詳細に検討した結果決定されたものである。現地調査は、延べ十六万キロメートルにも及んだ。

ところが昨年六月になって、同プロジェクトの構想が拡大され、マッケンジー・デルタから支線を引く、という計画に変更された。このパイプラインはトックトヤクトクの北西部から東南方向へ進み、やはりメルビル島のサピン半島からきたパイプラインとグレート・ベア湖の東北で合流して一本となる。そこからY字型に南東方向へ進んでグレート・スレーブ湖の東側、そしてさらにサスカチュワン州の北東部を通り、マニトバ州北部をへてロングラスへ達し、トランスカナダ・パイプライン網と接続する——という案である。

ポラー・ガス社によると、同社がY字型のルートに変えたのは、最近、海底パイプラインの敷設技術が進歩し、これまでより深く、そして長く敷設できるようになったため、と説明している。このルートの利点は、北極諸島の天然ガスとマッケンジー・デルタおよびポーフオート海の天然ガスを一つの輸送システムで運べることにある。いずれの地域も、単独ではパイプラインを敷設するに足る埋蔵量はなく、北極、ポーフオート海、マッケンジー・デルタの確認埋蔵量を合わせるとはじめてパイプライン敷設が正当化できるといふ。

将来の見通しは明か。一九七七年に発表されたエネルギー・鉱山・資源省の報告によると、マッケンジー・デルタとポーフオート海を合わせた推定賦存量(確率五〇パーセント)は六十兆立方フィート。北極諸島の賦存量は五十兆立方